

第2期 生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略 概要版

1. 計画の位置づけ

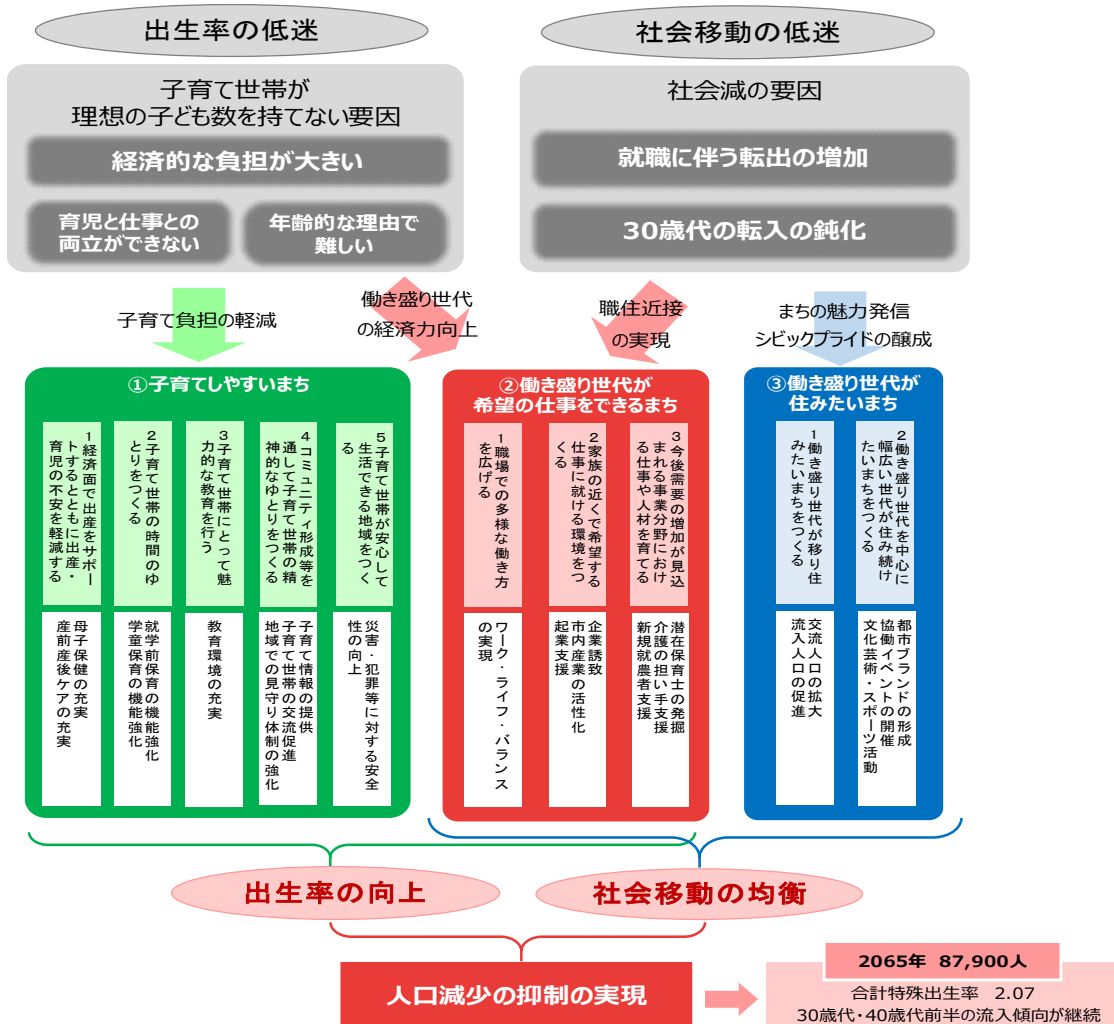
第2期生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略は、まち・ひと・しごと創生法の規定に基づき、第6次生駒市総合計画が掲げるまちづくりの基本的な考え方や目指す将来都市像などの市としての普遍的な方向性や、基本計画に位置づけられた施策との整合にも留意しつつ、本市を取り巻く社会経済動向や、人口動向に係る主要課題を捉え、施策を講じるターゲットを明確にしなが、今後急速に進行する人口減少を和らげ、将来にわたって活力あるまちを維持していくための具体的な取組を定めるものです。

2. 計画期間

総合戦略の計画期間は、令和2（2020）年度から令和6（2024）年度までの5年間とします。

3. 課題と今後の取組の方向性

人口動向から導き出される、出生率の低迷や社会移動の低迷といった課題を踏まえ、下記の方向性で取組を進めることで、出生率の向上と社会移動の均衡の維持を図ることにより、人口減少の抑制の実現を目指します。



4. 総合戦略で目指すまちの姿

『働き盛り世代が多様な働き方・暮らし方を選択でき、安心して2人目、3人目の子どもを産み、育てられるまち』

総合戦略では、子育て世帯を主なターゲットとし、子育てしやすいまちを目指すとともに、働き盛り世代に焦点をあて、希望のしごとができるまちや住みたいまちを目指しており、本市においては、計画期間中、『働き盛り世代が多様な働き方・暮らし方を選択でき、安心して2人目、3人目の子どもを産み、育てられるまち』の実現に向けて「まち・ひと・しごと創生」に取り組んでいきます。

5. 基本目標

本市の人口展望に見る取組の方向性を踏まえ、本市の総合戦略では、次の3つを基本目標とします。

基本目標 1 子育てしやすいまち

<目指す姿>

多様な保育サービスの利用やコミュニティでの支え合いの中で、子育て世帯が不安なく希望の子どもの数を持ち、ゆとりを持って生活（子育て）している。

<数値目標>

目標指標	現状値	目標値（R6）
①合計特殊出生率	1.27人（H29）	1.44人
②子育て世帯の住みやすさの満足度	5.52点（R1）	6.02点

<施策に関する基本的方向>

- 1-1 経済面で出産をサポートするとともに出産・育児の不安を軽減する
- 1-2 子育て世帯の時間のゆとりをつくる
- 1-3 子育て世帯にとって魅力的な教育を行う
- 1-4 コミュニティ形成等を通して子育て世帯の精神的なゆとりをつくる
- 1-5 子育て世帯が安心して生活できる地域をつくる

基本目標 2 働き盛り世代が希望の仕事ができるまち

<目指す姿>

ワーク・ライフ・バランスに関する取組が進み、働き盛り世代が多様な働き方を選択しているとともに、仕事を自ら起業するなど家族の近くで希望の仕事ができている。

<数値目標>

目標指標	現状値	目標値（R6）
①市内従業者数	27,043人（H28）	27,283人
②法人設立届出数	120件（H30）	150件

<施策に関する基本的方向>

- 2-1 職場での多様な働き方を広げる
- 2-2 家族の近くで希望する仕事に就ける環境をつくる
- 2-3 今後需要の増加が見込まれる事業分野における仕事や人材を育てる

基本目標 3 働き盛り世代が住みたいまち

<目指す姿>

多様な住まい方・暮らし方の推進により、働き盛り世代にとって魅力的なまちとして認知され、都市ブランドの形成と交流人口が拡大しているとともに、その魅力に惹かれて市外から働き盛り世代が新たに市に流入してきている。また、市内においても、働き盛り世代を中心にシビックプライドが醸成され、定住促進が進んでいる。

<数値目標>

目標指標	現状値	目標値（R6）
①働き盛り世代（25～34歳）の純移動数	-212人（H30）	-143人
働き盛り世代（35～44歳）の純移動数	+50人（H30）	+160人
②働き盛り世代の定住意向「ずっと住み続けたい」の割合	45.5%（R1）	50.5%

<施策に関する基本的方向>

- 3-1 働き盛り世代が移り住みたいまちをつくる
- 3-2 働き盛り世代を中心に幅広い世代が住み続けたいまちをつくる